

ぱり企業も巻き込んで、かなり社長がおると思うんですよ、女性だけの。その辺の女性会議というの設立は、皆さんも過去、何人かやっとなんです。女性会議の設立はどう考えてますか。今こそ必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

女性がいろいろなテーマで話し合う場というのも必要でありますし、また、大事なことからいうふうにも思います。ただ、どのようにそういうものを設立していくかも含めて、今後、どのような形ができるのか含め検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

検討・研究は、言うことはただなで、ぜひ輝く女性表彰制度も含めていろいろな形で今、女性起業家をネットで支援、新聞にも載っていましたが、その辺も含めて、ここの糸魚川で起業してもらおうとかいろいろな形でやっていただけるような糸魚川にしてほしいことを願ひまして一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実でございます。

今回の質問項目の定住促進と交流観光は、いずれも人口が減って糸魚川市の活力がなくなることへの対策ですが、この人口対策において、行政が単なる計画づくりの繰り返しにとどまることなく課題解決型のプロジェクトを運営して結果を出していくことを期待し、私なりの提言を交えての質問としたいと思います。

そこで、質問に入ります前に、この4月に会派政務調査で伺った島根県浜田市とその定住支援への取り組みについて概略をご紹介します。

浜田市は、島根県西部の日本海に面し、東西約46キロ、南北約21キロ、面積約690平方キロメートル。市域の大部分が丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、その海岸線はすぐれた自然環境と天然の港をつくっています。主要河川と水資源に恵まれ、多面的機能を持つ中山間地域は、環境の保全にも大きな役割を果たしています。有名な伝統芸能、石見神楽や石州半紙などの文

化財、しまね海洋館アクアス、海水浴場、スキー場、温泉など豊かな自然と観光資源を有し、高速道路、港湾などの都市基盤や大学・美術館を初めとする教育文化施設も充実しているなど糸魚川市との共通点の多い自治体です。平成17年10月に合併し、現在の人口は5万6,210人、「住みたい住んでよかった魅力いっぱい元気な浜田」を掲げて移住定住支援策に力を入れ、町に必要な人材に都会から移住してもらい、支援するシングルペアレント介護人材育成事業は、国の評価を受け、地方創生担当大臣も現地を訪れ、テレビ・新聞に多数取り上げられましたので皆さんもご存じと思います。

また、都市交流の先進地でもあり、浜田市と合併する前の旧金城町の提唱で約30年前に始まった「カチューシャの唄」知音都市交流が今も続いており、糸魚川市議会でも、これまでさまざまな先進的な取り組みの政務調査に委員会や会派で訪れております。

では、事前に提出した発言通告書に基づき、以下質問をいたします。

1、定住促進と人口増大への対応、糸魚川市の現状と課題について。

- (1) 第2次糸魚川市総合計画における人口問題・定住促進について伺います。
- (2) 糸魚川市独自の就労支援について伺います。
- (3) 人口減少対策「婚活ふれあい支援」について伺います。
- (4) 空き家情報管理、空き家活用について伺います。
- (5) 集落サポーター、集落支援員、地域おこし協力隊等の活動について伺います。
- (6) 他市町村と比較して成果をあげていることについて伺います。
- (7) 糸魚川市の参考となる他市の取り組み、例として島根県浜田市の「はまだ暮らし（定住支援・出会い応援情報）」について伺います。

2、交流観光・都市交流と人口増大への対応、糸魚川市の現状と課題について。

- (1) 第2次糸魚川市総合計画における交流観光・都市交流について伺います。
- (2) 糸魚川市独自の観光振興、観光ツアーについて伺います。
- (3) 観光施設やジオサイトの整備・管理・運営について伺います。
- (4) 様々な体験交流、様々な都市交流について伺います。
- (5) 糸魚川出身者と一緒に進めるまちづくりについて伺います。
- (6) 北陸新幹線などを生かした人口増大策の成果について伺います。
- (7) 糸魚川世界ジオパークを生かした人口増大策の成果について伺います。

3、権現荘問題について。

- (1) 議会に提出された資料「内部監査制度による権現荘の実態調査報告書」では明らかにされていない経営実態、食材仕入れの会計処理について伺います。
- (2) 権現荘小林支配人による特別客室の使用と費用負担、特定客への接待と費用負担、館内のスナックの利用と飲食費の負担など、公の宿の私物化とも思える事態について伺います。
- (3) リスク管理を怠った行政責任について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、第2次総合計画では、30年先も持続可能なまちづくりとして人口減少対策を重点課題といたしております。昨年度、策定いたしました総合戦略を着実に推進し、移住定住対策に取り組むことによりまして年齢構成バランスの改善を図ってまいります。

2点目につきましては、就職資金貸し付けの利子補給、企業見学バスツアーや就活フェアの開催、企業の動画やホームページの作成補助、市独自の職業訓練などを行っております。

3点目につきましては、団体が企画実施をする出会い創出事業への補助、婚活セミナー等の開催、縁結びコーディネーターへの委託や結婚相談所への入会費助成を行っております。

4点目につきましては、移住者への住まいの提供のほか空き家バンクへの登録を促進し、利用したい方へのマッチングを行っております。

5点目につきましては、集落支援員は6名、地域おこし協力隊は2名で、集落の支援や地域づくりにつながる活動に取り組んでおります。集落サポーターは、高齢化率の高い集落を対象に集落の共同作業に対してボランティア活動を行うものであります。

6点目につきましては、今年度からスタートいたしました就学資金返済支援や新幹線通学支援は、当市の現状に則した事業であると思っております。

また、匠の里プロジェクト事業では、エリアを指定し、その募集であり移住者の確保、そして、その後の活動に期待を持てる事業として考えております。

7点目につきましては、浜田市の取り組みの内容と発信方法がすぐれており、参考にすべき点が多いと感じております。

2番目の1点目の交流観光につきましては、点在する観光資源を効果的に結びつけることや新たな観光商品の開発などを行うことで交流人口の拡大を図ることといたしております。都市交流につきましては、市民が主役となった多様な交流を促進していくことといたしております。

2点目につきましては、市独自の取り組みとしてジオパークを生かした観光振興を進めており、今後もツアーの作成や観光施策に取り組み、交流人口の拡大を図ってまいります。

3点目につきましては、各施設を所管する部署や関係機関、地元の管理組合などが行っております。

4点目につきましては、サケのつかみ取り体験や昼競りの見学など体験ツアーを実施いたしております。都市交流については、今後も姉妹都市、友好都市、知音都市などさまざまな交流を進めてまいります。

5点目につきましては、今後も出身者会の皆様にご協力いただきながら糸魚川市のPRなどに努めてまいります。

6点目と7点目につきましては、北陸新幹線と糸魚川世界ジオパークのすぐれた自然資源、文化資源、食の魅力等、豊富な資源を結びつけることによりまして交流人口の拡大を図っており、その結果、定住人口の増大につなげていくものと考えております。

3番目の1点目につきましては、経営実態については内部監査でおおむね調査されたものと考えております。

また、食材の会計処理につきましては、商品の発注、納入、在庫の確認、納品書と請求書のチェ

ックについては権現荘で行い、支払い手続につきましては能生事務所が行っております。

2点目につきましては、宿泊者の安全を確保するためにやむを得ず宿泊する際に使用していたものであります。利用者に対するサービスは、支配人の裁量でリピーターをふやすためにおもてなしの一環として行ったものであり、一定の基準が必要だったと感じております。

また、スナックの利用につきましては、1人当たり2,000円の負担でお申し込みいただいております。

3点目につきましては、さまざまな検討を行った結果、支配人については9月末までで雇用を終結することいたしました。

また、行政の管理・監督責任についても一定の段階で責任を明確にいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、定住促進の2回目の質問です。

質問の7番に挙げた浜田市のはまだ暮らし（定住支援・出会い応援情報）と糸魚川市の定住促進の取り組みを比較してどうか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

浜田市の定住支援策、パンフレット等、私どものほうでも拝見させていただいております。非常にわかりやすく整理をされているなというのが第一印象でして、中身のそれぞれの支援制度等については、それぞれに優劣はあるんですけど、糸魚川市も割と取り組んでいると思われるものもあるというのも実感としてありました。

ただ、やはり見やすく、わかりやすく発信していくというあたり、この辺では、うちとしても浜田市のこういったPRの仕方、そういったあたりについても大いに参考にしていかなければならないというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうなんです。このパンフレットを見ると、浜田市のほうは3つの支援メニューが、子育て医療支援メニューと雇用等支援メニューと定住・U・Iターン支援メニューと3つあって、これが整理されて見やすくてわかりやすいんですね。内容が具体的できめ細かい。糸魚川もやってるよというんですけども、やはりここまで整理されていないし、関係づけというものがやっぱり見えないんですね。大きな差がついたんじゃないかと思うんですよ。やっていきたいというお話ですけど、

どうやって進めますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

実は、移住支援等に、移住に関するパンフレット等も糸魚川市はつくってありまして、中身的には、どちらかという糸魚川へ来るとこんな生活できますよ、が中心になっておって、支援自体は、また別冊で調べなきゃいけないとかそういった形になっております。その辺はそれぞれのパンフレットのつくり方等、アプローチの仕方等にもよるかなと思います。

ただ、やはりわかりやすく、何となく一つ一つの事業の関連性がわかりづらいというのは、議員ご指摘のとおりかなというふうに感じております。その辺は、要は移住定住の部分が主なんですけど、定住促進課が中心になりながら各課いろいろ支援策を持ってあります。そういったものをできるだけ横に差しながら一つの、何と言いますかパッケージとして提案できるような形に、庁内で調整してつけれないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

浜田市は、もうそれをやったってことなんですよ。十分調査して糸魚川市も進めてください。

地方創生で国から評価を受けた定住促進のためのシングルペアレント、介護人材養成事業の資料はごらんになりましたか。都会での仕事が大変で続けにくいシングルペアレントを受け入れるプロジェクトが、ことしでもう3年目です。これと糸魚川市の政策を比較してはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

シングルペアレントの介護人材養成事業につきましては、浜田市はやはり介護関係の仕事を、人材を確保したいというものと、首都圏ではシングルペアレントが非常に経済的に大変だったりとかそういったことから、これのマッチングというかそういったことが図れるのではないかとということで今回こういった事業、大分前から取り組んでおられます。遅くはあるんですけど、我々も今回の地方創生の関連では匠の里というものをつくって一つのターゲットとターゲットエリア、そういったものを明確にした上での移住策を展開しているということで考えております。シングルペアレントについて、今後どうするかというのは、また別途、我々また庁内でいろいろ連携をとりながら考えてみたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

浜田市の取り組み、ひとり親の浜田市への転入と介護施設への勤務を支援し、定住人口を増大させる。これによってひとり親を支援し、介護人材を確保するというアイデアは、浜田市役所女性職員によるプロジェクト「チームCoCoCaLa」が、平成26年にわずか2カ月でまとめたレポート、CoCoCaLaレポートで出され、27年3月末にマスコミ報道、5月1日、募集開始、5月上旬に東京、大阪、福岡で相談会開催、7月に市内見学会、審査会を経て住宅情報の提供、保育所等の紹介、生活相談員をマンツーマンで配置し、10月に転入。そして転入後の状況を聞くために市長を交えて歓迎会を開催しました。レポートの提言もすばらしいですが、それを具体化していくプロジェクトのスピードと展開がすばらしい。この事業展開のスピード感と現場対応と、糸魚川市の動きを比べてみてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

企画立案に2カ月強ぐらいの期間でやったものが事業化されてきているということで、そのスピード感はやはり目をみはるものがあるというふうに感じております。糸魚川市でもいろんな、昨年から地方創生の総合戦略の中で市内でもいろいろ会議をしながら進めてきましたが、これほどのスピード感はなかなかなかったのかなというふうに感じております。その辺では、やはりいかに情報をみんなでかき集め、それをどうやって加工して企画にしていくかという力を求められとるのかなというふうに考えております。今回、女性の働き場所確保対策プロジェクト等、こういったもののプロジェクトができてきておる中で、新年度の事業に向けて、また我々も中心になりながら進めて、いい事業政策をつくっていければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

話が平行線になるかもしれないけど、浜田市では、移住定住のターゲット、動機づけ、就労支援、住まいの手配、生活支援、子育て支援、地域のサポートがネットワーク化されて、それを行政がマネジメントしているが、それに比べて糸魚川市の取り組みはばらばらに見えますよね。マネジメントに差があると感じますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

今回、我々のほうでやっている匠の里もかなりスピード感を持ってやったつもりではあります。そういったところのできる限りの我々の考え、それから移住者への思いやり、そういったものを含めて進めてきているつもりであります。

ただ、いろんな事業の中で移住定住についての施策のばらばら感というのは、やはり取り組みながらどうやって組み合わせればいいのかとか、いろいろな部分でちょっと進めづらい部分もある

かなと。そういったところでは、やはり私どもの定住促進課が中心になりながらマネジメントをちゃんとしていく、コーディネートしていくということが重要だと思っております。このマネジメント力については、今ない部分として磨きをかけていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川市の組織体制に問題はないかと、もっと言えば職員の働き方に問題はないかと私は考えましたね。糸魚川市の取り組みは何かばらばらだということは、今、課長も感じてるというお話でしたが、それをチェックし、直す組織体制になっているか。企画財政課あたりがチェックして改善を促していくべきだと思いますけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当課としては、計画を策定する段階、それから計画を実施する段階の実施計画、それから予算づけ、そういった中では計画の全体調整をする役割を担っております。やはりそういった作業の中で、いわゆる事業のチェック、それから連携のあり方、そういったものも担当課とヒアリングする中で話をしております。そういう形でのチェックというのは、しっかりやっているつもりではあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では次に、糸魚川市独自の就労支援について再度伺います。

先ほど浜田市の事例を紹介しましたが、糸魚川市で必要な人材の移住定住、育成と就労支援、どんなプロジェクトを進めていくかと。匠の里という話がしきりに出てますけどね、単なる目標や構想の話じゃなくて、浜田市の事例を参考にして、私、糸魚川に移住してほしい人材といったらもっとほかにあるんじゃないかと思うけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

就労支援等については、どちらかというと、要は1次産業あたりがありますが、目につきますが、ほかに起業や創業についての支援も商工農林水産課のほうで手当てをしておったりしております。そういった中で、いま一度やはり糸魚川市でどんな人材が足りないのかというあたり、それぞれの部署において切実に感じている部分とかもあるものを、やはりそういったものに対する支援をする

制度をつくりながら、それぞれ移住のほうにつなげていくとかといったことも重要ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

重要なんですよ。浜田市の場合は、福祉の事業の人材を求めることがシングルペアレントへの支援になるという多重的な福祉施策になっているんです。では、糸魚川で今どんな方に住んで働いていただきたいかといえば、やはり医療と福祉の人材です。きょうの話を聞いて、市民部長はどう思いましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

市民部とのかかわりの中では、医療技術者並びに介護従事者については、やはり人材不足ということで私どものほうでは、就学資金の貸与事業を行う中で人材の確保を求めておりまして、この貸与資金につきましては、主に高校卒業される方を意識しておりますし、また、以前、Uターン者を対象に看護師の就職準備金等の事業をしたこともございます。そのような中で、今回、浜田市のひとり親移住支援ということでシングルペアレントという発想自体、今までもなかったことから、今回、ご提案を受けまして、またいろいろ内部で検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

支援のメニューをそろえるだけじゃなくて、やっぱりプロジェクトとして進めていこうと。そらマネジメントするときに苦勞するんですよ。だけど、その苦勞がすごく大事だと思いますので、そういった取り組みでお願いしたいと思います。

それと、このはがきを今回ご紹介したいんですが、市内のバス会社の女性ドライバー募集と大型二種免許取得費用を会社で全額負担しますというものです。男女問わず公共交通等の担い手となる方に都会から移住していただくことはどうでしょうか。きょうの話を聞いて、産業部長どういうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

公共交通の担い手については、決して男女問うものではなくて、むしろまた女性の視点というものも大切なものではないかなというふうに思っております。私、市内のバス会社ではありませんけれども、女性の大型二種免許で公共交通の担い手となっておられる方のバスにも乗車しました。とて



も運転がやっぱり違うのかなというふうに感じたときもありました。そういう視点は、とても大切だと思っていますし、その人材を外部、都会から求めるということも、今、糸魚川バスにおいては、恒常的に運転士が不足してるという現状も、私らも承知しております。そういった意味では、そういった手法もとても大事なのかなというふうにも感じておりますので、こちら辺は会社側とも十分また話をする中で、そういった求人の仕方もまたあるのではないかなというふうにも感じました。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

お願いします。私、個人的に感じるところなんですが、糸魚川の定住促進と仕事って、農業とセット、それから中山間地とセットになっていて、もっと言えば優先される地区も決まっていて、最初から根知地区のようなところへ定住する人に対しての定住促進をプロジェクトにしてるんじゃないかと。もう何年も人と予算、補助金とチャンスが集中し、プロジェクトが進んでるのは、根知地区と、あと数カ所ですよ。これどうしてですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

定住促進の部分については、やはり人口減が著しいところ、高齢化率が高いところといったところが、やはりひとつ優先的に取り組んでいきたい部分になるかということから、中山間地域に対する、要はいろんな施策等、中山間地域というかそういった高齢化率高いところ、そういったところをターゲットにしていくと中山間地域になっていくというのが一つの流れだと思ってます。なおかつ中山間地域にいきますと、やはり農地、本当は林地もあるとは思いますが、そういったところの保全も一つ絡んでくる。そういったあたりに早く手を打たないと地区自体の存続が危ぶまれるといった事態もあることから、そういったところに事業が展開されていることが多いというふうに捉えております。決して、優先地区をどこと、どここの地区が優先といったところで事業を始めているものではありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、私は根知に住んでるから根知というように指摘されてるようなところがございしますが、決してそうではございません。要するに、やはり地域をどのように進めていくかという地域づくりプランのできたところから行政と連携をとっていきますよというのが、冒頭に話をさせていただいております。そしてまた、今回の匠の里の構想につきましては、やはり今入っていただきたい方々だけではなくて、その地域に潜在的な資源があるのかどうか、そういった形の中でそういった匠の皆様方が5人もいるというのが、地域の中でトップだったわけでございます。

ただ、だからそれでやるということではなくて地域の皆様方にもお計らいをして、そういった人たちが入ってきてどうなのかということも地域に投げかけながら進めてまいっておるわけでございまして、そこで、もし断られたとしたら、また違う地域を探していく。また次にはどういった資源が、そういった人たちがおられるかということも調査をしながら進めてまいった事業でございます。たまたまそういったことがあったかもしれませんが、そういう段階を踏みながら、今、進めさせていただいておりますし、今ほかのところでも地域づくりプランができたところから連携をさせていただいているのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長答弁に違うとは言えないですけど、根知がモデルとなって、私、市全体が振興するということとを期待したんですよ。私が住む市街地との経済的な人的な関係、そういったものが今の形では見えないし、やっぱり根知地区だけは30年後も存続しますみたいなプロジェクトがめじろ押しですよ。新聞報道もそうでしょう。これやっぱり市長と担当課長が根知だからだというふうに勘ぐらざるを得ません。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

たまたま課長はなっただけですし、地域づくりプランは以前から進めてまいってきたわけでございます。それは、もう合併した当時から我々は総合計画、そして実施計画、そして各地域への地域づくり的なものについては、進めてきておるわけでございますし、地域の皆様方は地域としてどう将来を考えていくかという地域づくりプランを進めていくという方針はずっと前からであるわけでございますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

熱心に取り組む地域に支援していこうという理屈はわかるんですね。

しかし、選ばれた地域と選ばれない地域という格差を市民が感じるような地域振興策をこのまま続けていけば市民の中に違和感が出てきますよ。糸魚川の市街地の地区では、行政の今の進め方に期待する人は少ないですよ。区長さんたちは、要望を聞いてもらえないと困るから黙ってるだけなんです。新しい総合計画の住民説明会を開いても誰も来ないんですよ、だから。総合計画の住民説明会の状況、どうだったか説明していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合計画の住民説明会については、能生、糸魚川、青海、夜間も含めて4回実施しております。出席した数は合計で20名ということで、さらにその出席者は市の職員がほとんどということで、想定した参加より非常に悪い結果ということで、そういったことを考えると、こういった説明会のあり方、参加者をどう集めるか、そういったところについては、やはりもう一工夫必要なんだと思います。ただ、そのほかにもいろんな団体からご意見を聞いたり、審議会も当然、開いておりますし、地域審議会にもかけてるということで、いろんな方の意見を聞くというのは、非常に重要だと思っております。

また、この経験というのを、今度は総合計画ができ上がった後の住民説明のほうに生かしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足をさせていただきます。

各地域へ出向く行政懇談会がございます。そういう中において、私もこの説明をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よく会議やりますよね。それで、人口が減ります、計画をつくり、ワークショップをしますと。その中で、やれミッションだ、キーパーソンだと、リーダーだ、地元の熱意だと。それは役所ベースの地域づくりのスキームを繰り返してるだけで、各地区プロジェクトを進めることに親身になっているか疑問だという声があるんですね。例えば能生の上南地区以外の徳合、仙納、筒石、大洞、藤崎、百川の磯部6地区の取り組み、上南地区のように地域に入ってプロジェクトが進むように取り組んでいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

現在の、やはり人口が減り続けていく、それを手を打っていかねばいけませんけど、減っていくことは事実として予測されることです。そういったものに対する計画づくりということで、現在、地域づくりプラン、我々のほうで一生懸命進めておるわけで、今回、今年度入って5月からになります、地区懇談会を開催させております。現在のところ19カ所で開催をしております、おおむね大体、平均で20から30人ぐらいの地元の皆さんが来ていただいている。その中で何をや

るかという、これから皆さんの地区の人口は、こんななりますよというのを示しながら、このときは人口回帰1%ということで、人口の1%を毎年取り戻すと、地区は存続できますよというような一つのプラン、参考例を見せながら、人口が減っていても集落や地区が成り立っていく、皆さんの生活や今のサービスを、水準を確保するには、こんな方法もありますねという全国的な中で好事例を紹介させていただいております。そういった話し合いの中で自分たちの地区での課題、そういったものを気づいていただく。そこから、じゃあ自分たちでどんな地区にしていこうかといったことを考えていただくということで、現在、その地区懇談会を進めておりますし、今後、第3弾で地域づくりプランやってみませんかという投げかけになるような形で、地区懇談会もまたしかけていきたいというふうに考えております。

それから、今ほどお話がありました磯部6地区につきましては、今回、要は地域づくりプランのモデル地区として、特に話し合いを促進するためにファシリテーターを業務委託で導入しまして、そこでワークショップを進めながら各地区の課題の整理や、それに向かってどんなことができるのかといった計画づくりを今お手伝いしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

いいですけどね、ワンパターンのワンスキームなんですよ。それで、6地区の代表者集まっていたいて意見聞きましたと。課題整理した、いいですよ。だけど、徳合、仙納、筒石、大洞、藤崎、百川それぞれのやっぱり地域性もあるでしょう。そこに住んでる人たちの思いというのが、まだあるはずなんです。そういったものを十分吸い上げてないというふうに、私には見てとれるんですね。そういったことをこれから気をつけていただきたい。お願いしてます。

それと前から言ってますけど、押上駅周辺のまちづくりについてはどうですか。プロジェクトとして進めていますか。残念ながら何も進んでいないじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

新駅設置についてなかなか見えてこないというお話でございますが、ことしに入って5月に押上地区役員の皆さんが、市役所に来ていただいているとお話をさせていただいております。また6月には、押上地区の皆さんからお招きを預かりまして、新駅について出前講座を開催してさまざまなご意見をいただいております。

新駅設置、あるいは駅周辺のまちづくりということに関しましては、都市計画としての位置づけが、まず第一に必要となってきております。そんな中で、建設課としましては、この4月に糸魚川市地域公共交通協議会を立ち上げまして、1年をかけて地域公共交通網形成計画を策定中でございます。

また、今年度と来年度にかけまして、立地適正化計画を策定することにしておりまして、現在、

事務を進めているところでございます。ハード面では、この2つの計画をもとに新駅整備と新駅周辺のまちづくりについて検討する必要があります。

また、今後、ソフト面では、まちづくりということで定住促進課とともに地域の皆さんとも協議を重ねながら検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

議会で聞く場がなかったから、我々ちょっとわかんなかったかもしれませんが、地域づくりは住民がみずから主体となって進めることが前提ですが、行政の手续や予算のことはわかりません。だから、いつまでに何をやるということが決められずに、そのうち住民のモチベーションが下がったり、リーダーがかわったりして時間が過ぎて年をとり、疲労感だけが残り、人は減り、町の活気がなくなっていくという、このパターンの繰り返しからの脱却のために、私は集落支援員、それから地域おこし協力隊があると思いますが、これら現在の活動と成果について、改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

集落支援員は、現在、最新で7名、今、配置されております。地域おこし協力隊は、2名なんですけど、10月からもう1名ふえて3名になる予定になっております。どちらも中山間地域への配置ということになりますけど、やはりなかなか地域の皆さんの声、我々、地域担当とかというのがあるんですけど、なかなか拾い切れない部分もありますので、そういった声を、要は拾っていただいて、今度は施策に展開できるものはないかとか、困ったことがあれば、それは所管のほうへしっかりとつないで対応してもらおうとか、そういったことを集落支援員ではやっております。

それから、地域おこし協力隊につきましては、地域でどんなことをやって、元気になっていくんだというあたりが非常に大切でして、それらのお手伝いを協力隊員がやってくと。この協力隊員は、移住者に来ていただいて3年間、地域の活動支援をしていただくという中で定住につなげていくというものでありまして、定住につなげていくという部分も非常に大事だと考えておりますし、それと合わせて地域の活性化、それが隊員のなりわいにつながれば一番いいわけですけど、そういったものを模索しながら現在、活動しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうなんですけど、地域の困っていることの解決には、これまでは地区公民館の働きが大きかったものが、公民館体制見直しで不便になったと。そして、集落サポーター、集落支援員、地域おこ

し協力隊では、そのフォローになっていないと、何とかならないかという声を、私聞いております。そのことを担当課がどう受けとめ、解決しようとしているかということなんですね。これは、今は定住促進課の課長、少しお話しいただきましたけども、やはり問題解決につながっていかないという地元の声はまずいですよね。それで、これ公民館ということなんですけど、生涯学習課、それから企画財政課、それぞれどういうふうにお考えですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

お答えします。

平成28年度からになります。公民館体制というものが新体制で本格導入ということになっております。これまでもう半年経過しておりますので、公民館の活動の状況は、しっかりと把握はしていかねばならないというふうを考えております。

また、あと地区公民館、公民館活動に加えまして、新たなといいますか地域課題というものにつきましては、なかなか生涯学習サイドではちょっと難しいのかなというのがありますので、定住促進課ですとか関係する課との連携をとりながら、そういったものには対応していかねばならないなというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

公民館制度の改革につきましては、3地域のそれぞれ違う制度、それを1本化する中で現在の状況になったものと考えております。議員の言われている地域での困ったことというのがどういうことを指すのかよくわかりませんが、現状においてもやはり公民館と連携したり、それから行政懇談会があったり、地区の要望があったり、いろんな形で要望を受けとめておりますし、また、担当各課においてもそういう相談が来れば真摯に対応してるものと思っております。

ただ、そういう中でやはり地元として一番難しいのは、どこに相談したらいいのかなかなかわからないという、そういう現状があったことから地域振興係が全ての窓口になって、いわゆる庁内の取り次ぎをするというのが現在の形だと思っておりますので、もし各地区で困っていると、どこに相談していいかわからないというような声があったら、ぜひ定住促進課のほうへ話をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

今ほどの公民館等との連携ですけど、特に集落支援員については、その活動の1つの地区での拠点は、やはり公民館がベースになってくると。そこを拠点に各集落回ったりしている実態がありま

す。今回もやはり広範囲のエリアを担当している公民館等については、文書配布だけでも結構大変だというお話もお伺いしておりますし、そういったことを集落を回りながら、そういったことは支援員でもできるよねというようなことで、そういったサポートとかもさせていただいています。

あといろんな集落回るときに、個人個人でいろいろ問題やこんなことがあって困ってるんだというお話伺ってくることも支援員はあります。それらは公民館へ通じたり、我々のところへ報告をいただき、対応していくという流れをつくって、できるだけ地区の皆様の困り事に対してそういった形での支援をしていければというふうに考えております。

それから、先ほど私、集落支援員7名と申しましたが、今、1名募集中の部分も含めておりまして、現在、配置されているのは6名、もう1名募集中で最終的には7名を予定しているということでもあります。大変失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、3課長から答弁もらいましたけど、例えばこの場でいくとどこに聞いたらいいかかわからないと、それぞれ話してるんで、もうそれ1つだけじゃらばらじゃないですか。この連携のできていないことの課題解決、誰がトップになって当たっていくんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今の定住促進の話やら地域づくりの話をお田原議員からいただいておりますけれども、そういう部分でのワンストップ窓口、あるいは地域づくりのコーディネート役というのは、先ほど来、話がありましたが、定住促進課が担うということで27年度からそのような形で定住促進課を配置したところでございます。

また、それら施策の総合的な企画調整、これについては企画財政課が、その全体的な企画あるいは調整に当たるということであります。

したがって、庁内いろんな課にわたるわけでございますが、総務部がそれらの全体のコーディネート役を果たしていくということになります。したがって、その役目は、私ということになるかと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだその調整ができてないんでしょ。公民館の運営だから生涯学習課だという。そういう感覚が、まだ各地区集落の中にはあるんじゃないですかね。だから、公民館の運営だから生涯学習課というようなものがもう変わったのであれば、今度は総務部で各地区の問題解決に当たるということをも

っとちゃんと整理してやるべきだと思います。だから、どうなんでしょうね、組織の中どういう形になるかわからないけど、やはり総務部で統括的に見ていくんだというふうにすっきりしたほうがいいんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

地区公民館の地域づくりにおける拠点の役割というのが重要なところであろうかと思っております。そういう部分において、現在、地区公民館の所管は、教育委員会におかれておりますけれども、組織の全体的な見直し等の中で今後の一つの課題なのかなと。現時点においては、それぞれ連携をとりながら進めておりますけれども、なかなか市民の皆さんから見てもわかりにくいというような点が耳にすることもございますので、その点については、今後、組織見直しの中で課題として検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

耳にしてたんだったら早くやりましょう。

それでは最後に、婚活ふれあい支援についても伺います。

私は糸魚川出身の横澤夏子さんが新潟県婚活応援大使に任命されていること。それから能生の弁天岩が最近、恋する灯台に認定されたこと。また、いといがわバル街が人気で男女の出会いの場になってくれそうなこと。これらが糸魚川の婚活ふれあい支援に生かせないかというふうに思いますけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

ご提案ありがとうございます。

横澤夏子さんにつきましては、非常に今、人気があって、これも新年度事業に向けてなんですけど、我々のほうでも何とか夏子さんの力を借りて婚活事業を盛り上げられないかなというのは、考えていきたいなと思っておったところです。新潟婚活大使にも任命されたことですし、県ともちょっと連携しながらという手もあるのかなというふうに考えております。大いに有効な手となるように横澤さんにいろいろお願いできればというふうに考えておりますし、恋する灯台についても非常にいいイメージが、あそこの弁天岩のところにできたなということで、これを大いに活用していけばいいなと。これは婚活のこれからのハッピー出会い創出事業とかそういったものの中で、あそこをステージにしてというようなことも考えられるでしょうし、こういったあたりについてもまた工夫をしていければなというふうに思っております。

それから、いといがわバル街については、要は市の行政で主体になっているものではありません



けど、非常に人気があって、若者の交流の場としては非常にすばらしいなというふうに感じております。これらあたりも、何ができるかあたりは、また今後、考えていかなきゃいけない部分があるかと思えますけど、こういったものに近いようなものを、また今回バイバル25の同級会でも少し、ミニなんですけどちょっとやらせていただいたりしております。非常に参考になりましたので、こういったあたりもまた参考にしながら、なかなか成果が上がってこないのが今の婚活ふれあい支援なので、こういったものをひとついいきっかけにして成果を上げていけるような施策にしていきたいというふうに考えております。

ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

1つのプロジェクトとして、それはやっぱり行政がマネジメントしていく、そういうふうにして早く進めてください。

それでは、次の交流観光、都市交流について伺います。

ここでも横澤夏子さんと恋する灯台の人気を生かして、交流人口をふやすプロジェクトというものを提言したいと思いますが、その実施について担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

このたび日本ロマンチスト協会が、能生の灯台を恋する灯台ということで認定いただいたわけです。今後でありますけども、ロマンチスト協会のほうでは、この灯台をどのようにして観光資源としていくかを地元の方々とワークショップを行いながら検討していきたいというように話されております。市としてもそこに積極的に参画する中で、横澤夏子さんの活躍する場面あるいはお願いする場面についても検討の中にも入ってくるものだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

素材はそろったんですね。しかも人を呼べるイベントが計画できそうですね。だったらすぐにプロジェクト立ち上げて、実行して評価していかないと、例えばことし中に企画を終了し、来春、予算が通ったら4月にはイベントを告知する。夏の能生の花火大会のときに、かつてないほどの人が、わんさか能生に来ましたと。地元はもうかりましたという流れのプロジェクトじゃないとやる意味がないと思います。恋する灯台にあやかって言うんじゃないですが、恋にも観光にも匂があると私思うんですね。課長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり観光には旬があるというように思っております。当課としましては、ともかく特に観光ということで、スピード感を持ってやっていかなければならないというように考えております。

ただ、今回の取り組みについてロマンチスト協会は、先ほど申し上げましたように地元の方々ということがありますし、地元が盛り上がらないうちになかなか長続きしないというようなことをおっしゃってます。ということで多くの意見を聞きながら、議員おっしゃるようなスピード感を持ちながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

恋と一緒に熱が冷めないように、ひとつスピーディに取り組んでください。

次に、都市交流について伺います。

糸魚川市と交流している先で観光に力を入れているところ、潤っているところ、たくさんの方が来てくれそうなどころはどこか、分析・検討してありますか。これ、切りがないので、今の話、もし能生の恋する灯台を使用し、交流するとしたらということにしますか。能生といえば海、シーサイドです。となるとターゲットは、まず長野県ですか。議会で交流している小谷、白馬、大町、ここは四季を通じて観光客が多いところです。

しかし、観光でつなぐ取り組みは、これまで弱かった。観光行政、さぼってたんじゃないのかというくらいやってきませんでした。最近ようやく動き出しました。今後、糸魚川への客の流れをつくるプロジェクト、あれば伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、議員ご指摘の小谷、白馬、大町ということですが、私ども交流観光課のほうでも北アルプス日本海広域観光連携会議といった組織を設置する中で、この3市、村には入っていただいております。ここが土台になってくるかというように考えております。こうした中で、まさにその違いといえば、今のご指摘のあるように山と海ということだと思っております。特に今、白馬から糸魚川へ、昨年といいますかこの冬、J.C.の皆さんがシャトルバスを運行しました。私どももそれに協力させていただいたわけですが、これを継続実施、協力していくといったほかに、今週になりますけども、北アルプス日本海広域観光連携会議の中で関西の旅行社をターゲットとしたモニターツアーを、今週、

実施いたします。この中でもやはり山と海というのをモチーフにしてやっていこうと考えておりますし、あと台湾からの自転車の愛好家を招くといった取り組みも新たに進めていこうというように考えておりますが、いずれにしても山と海というのをキーワードにしながら観光誘客を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、お話出ました北アルプス日本海広域観光連携会議、ここでPR動画というのをつくったと思います。私これユーチューブで見ました。そして何とこちらにも横澤夏子さんが出演して、各地の魅力を発信していい感じですが、この動画を私は見てシェアしたのは、8月23日。そのとき閲覧した人は、まだ100名程度でした。このユーチューブのものが夏休みに向けてつくられたとしたら完全にタイミングを外したと思いますけども、なぜそうなったのか、また、これ幾らぐらい費用がかかってつくったのか、そこら辺少し事情を説明してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、まさに夏向けにということで制作しております。私ども市長が定例の記者懇談会というのを、毎年、実施しております。7月の場合、14日の日に記者懇談会やりました。この席でプレスの皆様、きょうから動画を公開するよということでご案内をさせていただいております。この結果、糸西タイムス等に掲載がされたところでもあります。アップ数なんですけども、100回ということなんですけども、7月16日にアップした後、再生のふぐあい等が生じた関係で、一旦リセットしてまた戻っていったといった形で若干少なくなったのかなというような気もしております。

ただ、私ども、糸魚川市観光協会あるいはジオパーク協議会でフェイスブックを持っております。3月に横澤夏子さんを観光営業主任ということで任命させていただきました。そのときのフェイスブックのリーチ数ですが、糸魚川市観光協会は、3万件を超えております。また、ジオパーク協議会も2万件を超えております。それに対して少し丸が幾つかは少ないといった状況でありますので、そのあたりを検証する中で、同じ手法で宣伝をさせていただいたんですけども、なかなか見ていただけなかったということについては、検証しながら、また対応を考えていきたいと思っております。

予算でございますが、6本、それぞれの市町村別につくっておりますして75万円となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、人気でまさに旬の横澤夏子さんなんですけど、夏子さんを主人公にシリーズ化しておもしろ

い内容にしたら多くの横澤夏子ファンがこの地を訪れてくれると、私そう思うからこそ、今ここで話をしております。観光には旬があるということなので、この取り組みもスピード感を持ってやっていただきたい。そのことを理解していただきたいと思うわけです。

さて、長野県では、ほかに松本市、そして塩尻市、諏訪市とそれぞれ違うテーマで現在、都市交流をしていますが、伺いたいのは、この今までやってきたテーマを見直す必要性はないか。それから、どのようにつながっていったのかというプロセスを住民同士が理解するということが大切ではないかと。そして、これが目的になりますけれども、糸魚川に継続的に人を呼び込む、そして経済効果を出すと、そういったことをプロジェクトとして進めていく、そういったことの必要性を感じるんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

松本市とは地域高規格道路、そして塩の道というつながりがございますし、諏訪については、建御名方命に始まります奴奈川姫の話といったつながり、さらに塩尻につきましても、旧糸魚川市以来、姉妹都市交流というものを進めております。ことしは塩尻市の職員が、糸魚川市の交流観光課に来て仕事をするといった人事交流も行っております。

こうした中で、やっぱりご指摘のとおり住民の理解が必要だというように思っております。こういった取り組みを、機会を捉えて市民周知をしていきたいというように考えておりますが、プロジェクトということでは、今までのこういった取り組みを生かす中でどうやってやっていけばいいか、特に、松本、塩尻、諏訪というのは、まさに山のほうでありますんで、先ほど申し上げましたように山と海を生かして日本海の魚、日本海の食といったものをPRする中で糸魚川にお越しいただいて、糸魚川でお金を使っていくといった取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

相手先もあって大変だと思いますけど、やっぱりプロジェクトにしてどうやって糸魚川に、あるいは先方のほうに行くということでもいいです。経済効果を出していくか、そのことをプロジェクトにしていかないと、幾ら地域高規格道路のフォーラムとかやっても人が来ないと思うんですよね。そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

稼ぐ観光ということでは、議員ご指摘のように、さらに一歩進めていかなければならないと思っ

ております。こういった稼ぐ観光という視点の中で広域連携会議使ったり、あるいは地域高規格道路の協議会を使ったり、さまざまなおところを使いながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

これも長野県なんですけど、長野市松代、それから中野市とは、「カチューシャの唄」知音都市交流ということをやっておりますが、この交流の効果についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ことし中野市の皆さんなんですけど、初めて能生の花火大会を見に来られました。ということで、交流が深まれば深まるほど、また新たな交流ができていっているというように感じております。そうした中で浜田市のほうからは、農産物の特産品の開発等で連携をしていかないかと、こんな話もあります。交流を深める中で先ほど申し上げました稼ぐ、いわゆるお金が回るような交流につながっていくように努めてまいりたいというように考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私、思うんですが、知音都市交流に東京を加えたいですね。東京といっても広いですからどこかといえば、これは早稲田大学です。早稲田大学を「カチューシャの唄」知音都市交流の東京の拠点とする交流で糸魚川の知名度を上げ、糸魚川に誘客し、また稼ぐと。そういったことをプロジェクトとして、これから進めていただきたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

御風顕彰という点から、私のほうからお答えさせていただきます。

早稲田大学と糸魚川市は、社会連携プログラムですとか、先般の教務部との協定の締結などによりまして、関係・連携が深まってきている状況と捉えておりまして、御風顕彰を進めるチャンスでもあるというふうに感じております。

また、今月下旬には、キャンパスを会場とした大学周辺商店街主催のイベントに知音都市交流有志の方がブースを構え、御風と糸魚川をPRするというふうに向っております。相馬御風の認識度アップ、糸魚川の知名度アップにつながる動きとして捉えております。

このような状況を踏まえまして、まず知音4都市の交流に早稲田大学からも何らかの形でかわりを持っていただくということを念頭に置きながら、今後、大学などと連携醸成しつつ御風顕彰やPRを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

結構なことだと思います。それで、都市交流で糸魚川にたくさんの方が来てくれそうな相手先、場所としては、東京、横浜、首都圏エリアまだまだ未開拓だと思います。これまで糸魚川市は、首都圏での知名度を上げる努力や新幹線などを使って来てもらう努力を当然してきたと思いますが、この機会にその成果について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

首都圏の知名度を上げるといったことでチラシという形ではございませんけども、糸魚川という文字を書いて読めますかという、ちょっと自虐的なパンフレットもつくったことがあります。いずれにしても注目を浴びることが大事ということで、そんな情報発信をしておりますが、実際の活動としては、なりわいネットワークによる特産品の販売、それから、市とか観光事業者の連携などによる観光PRといったものもやっております。首都圏では、埼玉県で海の、海水浴のPRなどをやっております。

また8月、先月であります、東京都北区のバレーボールの交流、約30名の方が北区バレーボール連盟ということでお越しいただきました。1泊2日で宿泊も伴ってということで、お金を落とさせていただいたわけではありますが、こういった取り組みを進める中で東京というとなかなか大きな海でありますけども、その海の中でターゲットを絞りながら誘客に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今の北区とのバレーボールの交流について、かかわった担当課の方、どんな様子だったかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

お答えします。

8月7日でありますけども、東京都北区のバレーボール連盟の皆様と糸魚川市の体育協会のバレーボール協会の皆様との交流を初めて開催させていただきました。当日はバレーということで、今回、初めての企画で開催させていただきましたけども、非常に白熱したゲーム展開であったのかなというふうに思います。時間のほうもちょっと延長するぐらいのところもありましたし、あと参加していただいた皆様からも非常にご好評のほうをいただいたというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ただ、それが糸魚川に経済効果があったのかとか、それから今後つながっていくのかというところが大事なんですけども、そこら辺についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

今回の交流でありますけども、確かに首都圏からおいでいただいておりますので、1泊2日の宿泊がついているという点と、あと観光もセットになっているということで、非常に当市にとりましては、交流という形で経済効果のほうもあったのかなというふうに思っております。こういった点を通しまして、今回は向こうから来ていただいておりますが、これから相互に発展できればいいものというふうに期待をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう1つ伺いたいんですけど、墨田区の押上と糸魚川の押上との地名交流、これに海洋高校の紹介をしたといったところで、いろんなところに広がる可能性があります。墨田区の議員の皆さんも視察に来たんですけど、これからこういったもんでどういうふうに発展していくのかということですよ。何かプロジェクトとして考えていただきたいと思っておりますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

押上つながりということで、民間同士でのおつき合いが、これで4年目になるんでしょうか、私も、おとし634サミットに参加をさせていただきました。昨年は、海洋高校の生徒が、そのサミットに参加をして、プレゼンをし、賞をもらったということもお聞きしております。

また、ことしのご案内もいただいているようでありますけども、日本の胃袋の中心地でありますので、糸魚川の食材をおいしいものをPRするには、非常に絶好のチャンスだということで、当課

におきましても4年前から墨田地区とおつき合いをさせていただいてきております。今後もやはりそのつながりは、大事にしていかなきゃなんと思っておりますし、ことしのご案内もいただいております。それがやはり最終的には、民間同士のつながりで経済効果につながっていくようなことを期待して商工農林水産課としてもご支援申し上げていきたいという考え方でおります。

いま一点、東京の中で糸魚川という知名度をとということでございますけども、なりわいネットワークを通じて41店舗おつき合いいただけるお店ができて、その中でやはり大きな居酒屋チェーンが3組入っておりますので、その中でもしっかりと糸魚川の情報発信をしていける土壌ができていますので、それをますます今後、使いながら経済効果が高まるように支援していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私が今回どうして詳細に相手先を、例えば東京の北区だとか押上だとか墨田区だって、そういうものを出して話してるかということなんですけど、民間同士はつながっていけるんですよ。それで、必要がなくなればそれまでということもなるかもしれない。逆に行政のほうは、交流が始まってしまえば、なかなかやめるにやめられんこともあるかもしれない。

ただ、やはり確かな交流というものを進めていくには、公のお墨つきみたいなものも必要なんですよね。それで、新しい形で都市交流というものに対して行政のほうから、より柔軟に考えて取り組んでいただきたいのと、こう思うんですけど、そこらあたりはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

行政が継続的に取り組むといった場合には、どうしてもそういった取り組みが市民の理解を得て、市民の多くがやってもいいよというところが必要だと思っております。ですので、民間交流が深まる中で、行政としてタイミングを見ながら応援していくという形になるかというように思っております。

ただ、いずれにしても交流というのは、非常に大事なキーワードでありますし、そういった交流が持続可能な部分というのは、非常に高いわけですので、私ども適宜サポートなりをしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

その部分よろしくお願ひしたいと思います。

それで、次の質問ですが、このように首都圏との交流が進んで、糸魚川への観光客がふえるとい



う前提で、首都圏から糸魚川に来てくださるお客様をターゲットにしたプロジェクトの中で、私が注目しているのが、糸魚川駅発着の半日観光バスです。夏のシーズンが終わったばかりですみませんが、このコースで見ることができるポイント、観光ガイド、利用状況やお客様からの反響がまとまっていれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

6月から8月まで糸魚川駅を発着ということで、玉翠園・谷村美術館、フォッサマグナミュージアム、そしてマリンドリーム能生といったところを回らせていただきました。期間中の土曜、日曜、祝日運行でありましたが、11日間運行しまして47人の利用がございました。

ガイドにつきましては、ジオパーク観光ガイドが実施しております。

利用者の声ということではありますが、実際にお客様からは、えりすぐりのコースであり、安くて利用しやすいといった声があったということです。これまでは定期観光バスということで丸1日を使う形を進めてきましたけども、試験的にやってみる中では、声としてはよかったのかなというように理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ちょっと利用者が少なかったようですが、市内を手軽に見て回ることができて、かつ満足度が高い観光の目玉となるように、このコースをブラッシュアップしてほしいと思います。

そこで伺いますが、新幹線駅の近くは、魅力的な飲食エリアになっていきますか。これあくまで観光客目線で捉えてどうかお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

新幹線開業して、お昼、ランチを出す店がふえております。また、今、おみちよう御膳といった取り組みもありますけども、観光客目線という視点でいうと、まだ情報がきちんと伝わっていないのかな、情報の発信に課題があるかなというようなことも感じております。こうしたことで、いろんな皆様のご意見を聞く中で、どうやれば観光客にもっと情報が伝わるかといったことについてブラッシュアップしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

次に、この観光ガイドはちゃんとしていますか。以前、定期観光バスに、私、試乗したときに、ガイドさんが谷村美術館でユニークな解説をしてる場面に遭遇をしました。これまでも気にはなっていたのですが、建物のイメージをシルクロード風と言っておきながら、最後はモアイ像をかたどった建物ですと、こういうお話だったんです。もしここに、建築家村野藤吾や谷村美術館建築に詳しいお客さんがいたらどう思っただろうかなと。誤解を受けるようなことを心配して、そのことを担当課に伝えましたが、その後、どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長(渡辺成剛君)

お答えします。

ご指摘のガイドの件につきましては、ご指摘をいただいてから直ちにガイドの皆さんを集めて研修会をさせていただいております。いずれにしましても、お客様は谷村美術館というところで美術館、そして美術品を見に来るといった目的を持っております。それと逸脱したような話があると、それは興味のある方にとってはいいわけですが、お客様によっては不快な思いをされるといった点もあるかと思っておりますので、いずれにしましてもガイドの皆さんには、ご指摘の分を含めながら、お客様本位でガイドするようというのを伝えさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

事実からかけ離れたことを地元のガイドさんが話をしたんでは、糸魚川の1級の観光施設の価値が下がるんじゃないかと。磨かれるところが曇ってしまうということを考えまして、あえてお話をさせていただきました。

さて、糸魚川市の1級の観光施設ということで、もう一つ、私、今注目のえちごトキめき鉄道リゾート列車「雪月花」、この活用についても今回ぜひ伺いたいと思うんですね。この列車のデザインが今、国際的な評価を得ているんですが、担当課はご存じですか。また、これどう生かしていくかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長(見辺 太君)

お答えします。

「雪月花」のデザインにつきましては、国内外の多くのマスメディアに取り上げられて注目をされとるということを承知しております。いろんな国際的評価いろいろございますが、特に「雪月花」のデザインにつきましては、国際デザインアワードの最終審査においてファイナリストに選ばれてるというふうにお聞きしております。今後の「雪月花」の活用につきましては、今現在は、え

ちごトキめき鉄道の中で運行をしておりますけれども、先日、少しえちごトキめき鉄道のほうからも情報があって、隣接他社線への乗り入れについても積極的に検討していきたいというふうな報道があったところでございます。市としまして、特に大糸線への乗り入れについて積極的にPRしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この糸魚川エリアを世界が評価したデザインのリゾート列車を使ってめぐるツアー、ここに一流の建築と一流の彫刻がコラボした谷村美術館を組み合わせれば、プレミアムな旅行商品の目玉になると思うんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今週、関西の旅行社ということで大手の旅行会社、JTB、日本旅行を含めた旅行社の皆さんがモニターツアーにお越しいただきます。この中では、「雪月花」に乗っていただいて、上越から乗って能生でおりるといったコースを今、設定しております。この中では、北アルプス日本海広域観光連携会議でやる関係で、海と山ということで谷村美術館等は入っておりませんが、先ほど申し上げました半日観光バスは、JR西日本さんとの話の中で生まれております。JR西日本さんのほうの中では、「雪月花」が非常に誘客としてはいいよねといった話、そして、今の半日観光の谷村美術館等を使わせていただいておりますので、今後の展開として1級の価値といったことでプレミアムな旅行という中でPRに努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「雪月花」をデザインした川西康之さんという建築家でデザイナーの方なんですけど、この方をフェイスブックで知ったんですね。実は、この土曜日に、私、糸魚川で川西さんとお会いして、お話をいろいろ伺いました。そうすると2泊3日で20万とか30万とかという旅行商品が、今、売り出されるんだそうで、その中に糸魚川では谷村美術館、ちゃんとコースに入ってるんだそうです。そのことは、まだ聞かれてませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

他のツアーにつきましては、谷村美術館から聞いておりますが、今の件については、まだ聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

谷村美術館というものが、また再評価を受けて、この「雪月花」が有名になって糸魚川が有名になって美術館が有名になると、また人来ますよね。そこが狙いなんですよ。だから、しっかり取り組んでいただきたいと思いますね。それから、先ほどのガイドのこともそうなんですけど、例えばミュージアムショップもやっぱり売っているものも含めて雰囲気をもっとよくするとか、そこら辺の工夫をしっかりとしてもらいたい。建築家の資料とか彫刻家の資料とか何も売ってないんですよ。お煎餅やあらは売ってて、やっぱりそういったものが売ってないというのはちょっといかなもんかなとこう思います。質の高い美術館経営を目指していただきたい。そこで参考になるのが、島根県の足立美術館なんです。とっても人気が高くてインバウンドも多いと。こういったものを参考にしてもらいたいがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

足立美術館につきましても数年前、個人的に旅行で行ったことがございます。非常に料金が高いにもかかわらずたくさんのお客さんが来ていると。ただ、その中でお話を聞くとやはり満足感の高いというようなお客さんの意見といたしますが、周りで声が聞こえております。そういった先進的な美術館を参考にしながら進めていきたいと思っておりますし、今何よりも大事なものは、やっぱり美術館に求めるものがあるわけなので、そのお客様の求めるニーズに対応した時間の提供といったものに努めてまいらなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「雪月花」をデザインした川西さん、たまに糸魚川へお見えになるようなんです。交流観光課長は、川西さんとは面識はありますか。川西さんと会って、列車を生かした観光とか、あるいは美術館、どういうふうな形がいいかという。そういう話、詳しく聞いてみたいとは思いませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

観光を進めていく上でいろんな人の声を聞くというのは、非常に大事だと思いますし、社会の変化が変わっていく中でそういった声が非常に大事だと思います。前向きに、ぜひ会う機会があれば、お会いしてお話を聞きたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

建設課長は、川西さんと面識ありますか。駅を生かしたまちづくりについて詳しく話を聞いてみたいと思いませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

面識はございません。できれば会って、どんな方が、どんなことを言われるのか、お話をお伺いしたいなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

産業部長、今のような話で地域づくりのプロジェクト進めてみたいけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

今、ご提言いただいております方とは、お名前はお聞きをしたことはありますけれども、私も実はお会いしたことはございませんけれども、ネットで拝見しますと会社の名前も株式会社イチバンセンというふうなことで、いわゆる駅にはいろんな出会い、スタートといいますか、始まりがあるというようなところが狙いだったのかなというふうに思っています。やはりまちづくりも駅からスタートするというような、やはりイメージを先生持っておられるのかなと。まだ年齢も40歳ぐらいの非常に若い方でいらっしゃるけれども、インターナショナルなグッドデザイン賞とかすばらしい賞を、駅のデザイン等で受賞されていることは、ネット上では拝見いたしました。そういった方とまた面識を持って、まちづくりができるということは、すばらしいことではないかなというふうに思っております。ぜひまた、部内でもその辺は検討してみたいなと思っております。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、時間ないですけど、権現荘について。

これまでの古畑議員、保坂議員、田中議員への答弁では、経営実態、食材仕入れの会計処理は、全くわかりません。異常に高い食材費比率の原因も全くわかりません。全ては、はぐらかし答弁であったと思います。これで市民からの信頼が得られるはずはないと。公務員の誠意、まごころというものを持ってお答えをいただきたいと思うけど、そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議員の皆様からのご質問に対しては、誠心誠意を持ってお答えをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだ食材の関係がよくわからないんですよ。食材の支払い伝票を見れば、小林支配人の決裁の判こが押してあれば、能生事務所は全額を払ってきたんでしょ。小林支配人と原能生事務所長が結託すれば何でもできるというそういう環境に見てとれるんですよ。そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

食材の支払い等々についての事務手続上、そういった不正のような、そういった内容は、もう一切ないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そら、あるっていうわけじゃないですか。そこが見えないからちゃんと証拠出して、しっかりと説明してくださいと言ってるわけですよ。まさに不正の温床になってきたんじゃないですか。結果として2人で組んで、糸魚川市民の税金を使い込んだと言われてもしょうがない事態ですよ、これ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

いろいろな憶測を持たれた上で、不正があったのではないかというふうにおっしゃっておりますけれども、逆の面で行きますと、どのような状況のもとに田原議員おっしゃっているのか、その点も明らかにしていただいた上で、また話があるかと思うんですけれども、一部の憶測で言われたところについては、なかなかお答えできないというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

だから、そちらのほうでしっかり説明して明らかにしてくれということをやっていないからじゃないですか。もうこれは、百条委員会で明らかにする必要があると思います。

最後に伺いますが、原事務所長と小林支配人は、糸魚川の住民ですか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

小林支配人は、まだ上越のほうに住民票がございます。それで、そちらのほうから通ってきているということですが、私はまだ糸魚川のほうに住民票を残しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

じゃあ、原事務所長は、税金払っているけど、小林さんは、糸魚川市に税金払ってないということですね。そういった方が権現荘を私物化して、好き放題やった疑いがあるということは、やっぱり話していただかないと市民に対して申しわけ立たないです。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。

再開を3時30分といたします。

午後3時16分 休憩

午後3時30分 開議